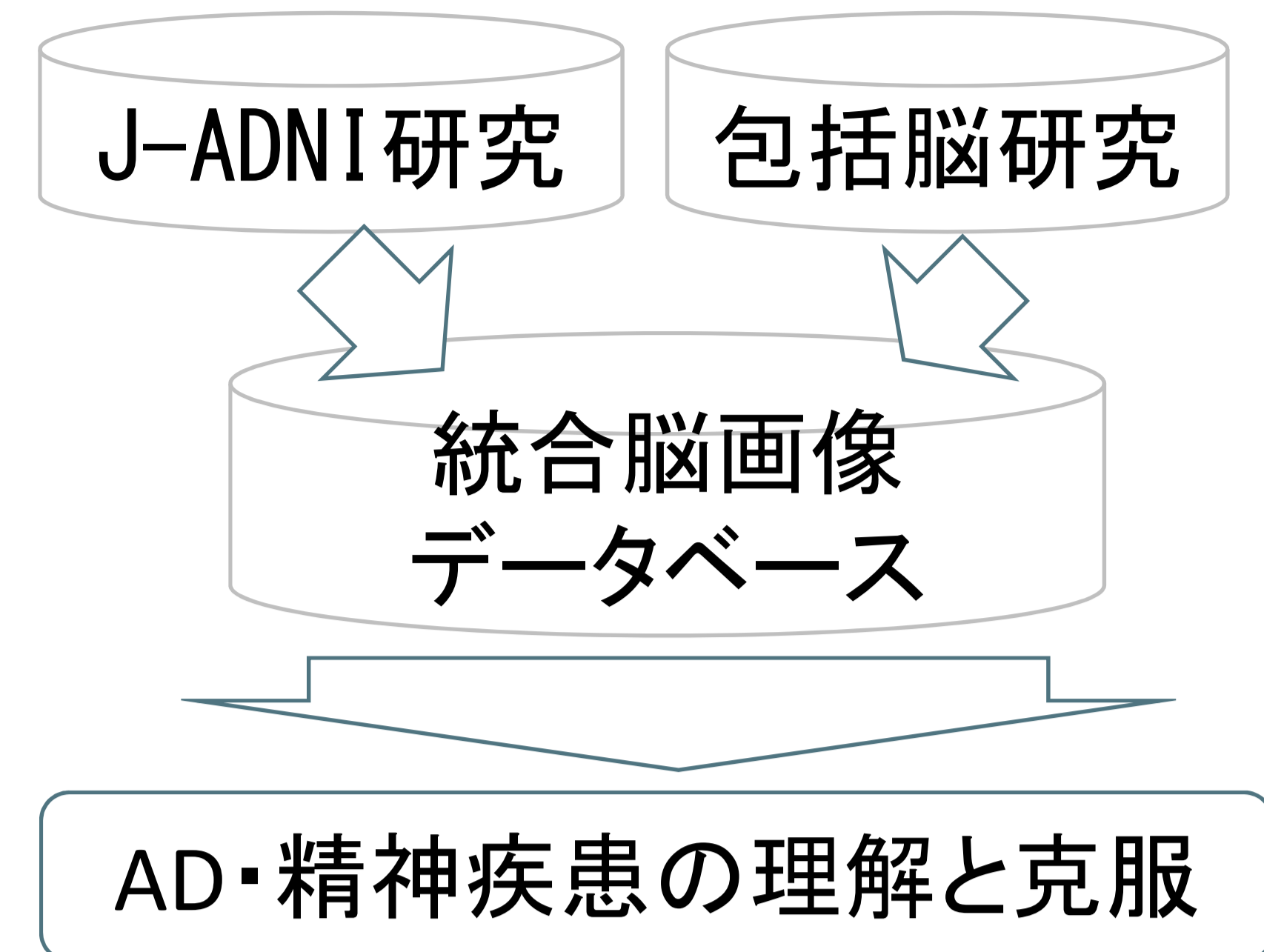


ヒト脳疾患画像データベース統合化研究

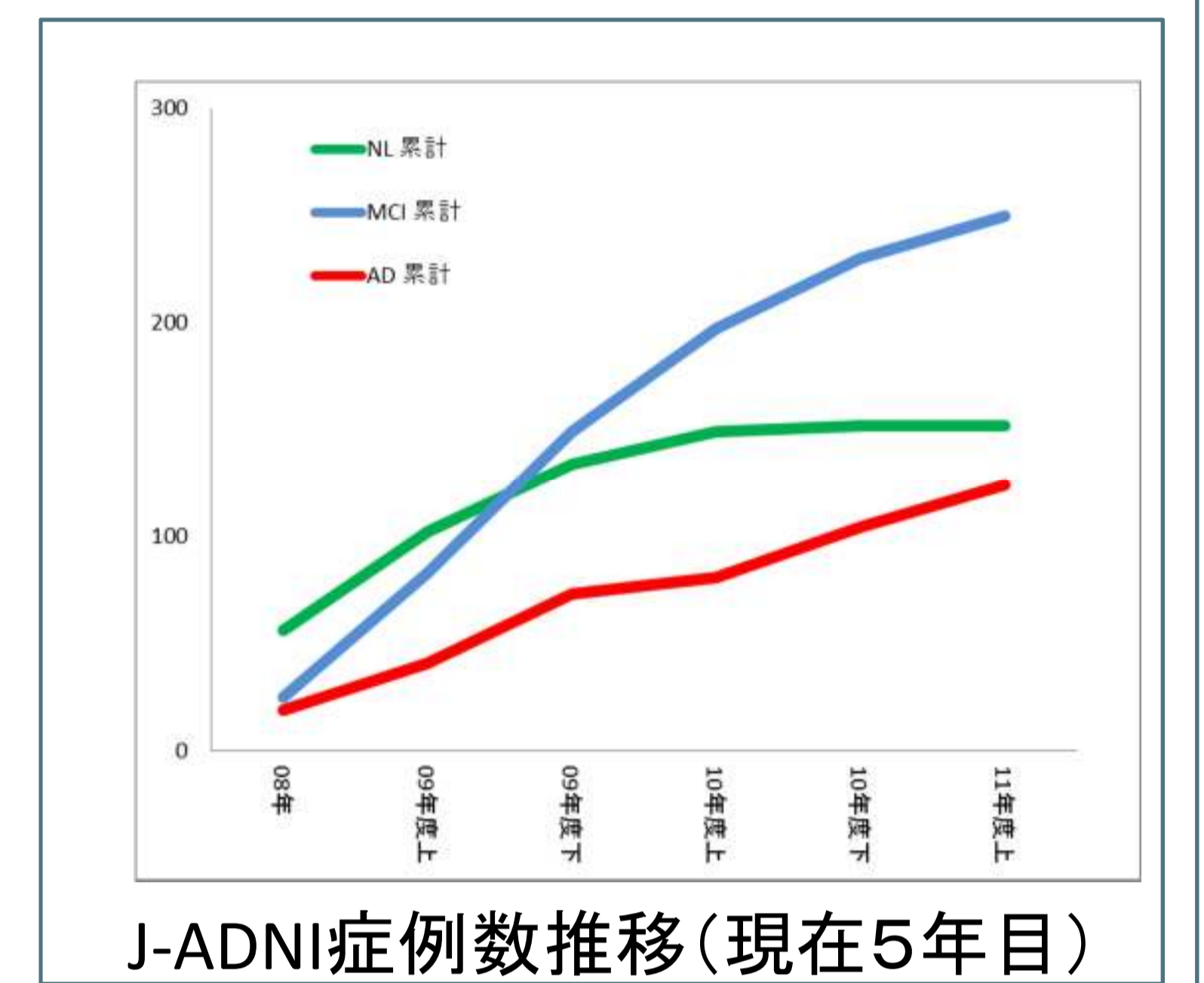
アルツハイマー病 (AD) 等認知症や精神疾患の克服に向けて、AD の発症過程をMRI, PET などで脳画像評価し、臨床治験におけるサロゲートマーカーとして確立するJ-ADNI研究、精神疾患のMRI 脳画像を臨床・遺伝情報とともに収集する包括脳研究が進行中である。脳画像を含む臨床データをデータベース化し、アカデミック、製薬企業、審査当局等による**公開活用**を図る。



J-ADNI と包括脳

《J-ADNI 研究》

- J-ADNI (Japanese Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative), NEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)と厚生労働省の連携プロジェクトとして、現在進行中(PI:東京大学 岩坪 威)。
- **全国38カ所**の研究参画施設から計600例の被験者を、2年から3年の間フォローアップし、臨床データ、画像データ等を蓄積する。
- 定量的評価のために、コストを掛けた QC(Quality Control) と、**画像補正**が必要不可欠。
- 治験におけるバイオマーカーとしての活用



《包括脳ネットワーク》

- 包括脳研究(文科省科研費)では、統合失調症、うつ病など患者群と若齢健常対象者群を対象として、現在進行中。(PI:東京大学 笠井 清登)

J-ADNI の主なデータ	
画像情報	MRI画像、MRI 補正画像、PET画像
臨床情報	認知機能検査、併用薬、腰椎穿刺、バイタルサイン
遺伝情報	ApoE

課題と進め方

- MRI 画像のほか、臨床、生化学、遺伝子情報を**総合的に**管理する必要がある。
- 現在進行中の研究であり、**DB構築とデータ利用が同時に**進行する。
 - バリレーションツールの開発や US-ADNI との比較しやすい形式への整形などを、研究進捗に応じて進める。
 - 公開する情報の範囲については、東京大学研究倫理委員会にて慎重に議論を行う。
 - 脳画像データの扱いに関する知見を共有しつつ、統合化用のデータベースをJ-ADNIと包括脳で作成し、最終的に **Brain Imaging DB** として統合化する。

